

## 「京都府を調べよう」を使った「都道府県」学習の授業実践

京都府長岡市立長岡第二中学校 宗像 玲

## ① はじめに

学習指導要領の中の「(2) 地域の規模に応じた調査」においては地域的特色をとらえる視点や方法を身につけることが求められている。

直接経験地域である「身近な地域」を対象に市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法の基礎の上に、「都道府県」学習をどのように展開すれば系統的な学習が実現するのか。本稿では帝国書院『府学習用 京都府を調べよう』(以下『府学習』)を使った授業実践例を提案する。

## ② 『府学習用京都府を調べよう』を使った授業

## (1) 京都府のイメージを出してみよう。

まず自分たちが住んでいる京都府にはどんな特徴があると思うか、自分の「京都府」に対するイメージを二つずつカードに書かせた。生徒のもっていたイメージは次のように整理できる。

1年生167人に聞きました。京都と言えば？

- ①お寺、神社、歴史の町 (78)      ②タケノコ (46)
- ③西陣織、織物、着物 (19)      ④舞妓さん (14)
- ⑤ちりめん (5)      ⑥祇園祭、大文字、伝統行事 (55)
- ⑦工業製品 (京セラ)、ゲーム任天堂 (3)
- ⑧京料理、京漬物、京菓子、生八つ橋 豆腐 (13)
- ⑨清水焼 (3)      ⑩京都タワー、京都駅、桃山城 (22)
- ⑪名水、水がおいしい、地下水 (4)      ⑫マツタケ (4)
- ⑬自然が多い、のんびりしている (11)      ⑭禅染 (1)
- ⑮都があった、平安京、長岡京 (11)      ⑯お茶 (3)
- ⑰長岡天満宮、乙訓寺、光明寺もみじ、西国街道 (10)
- ⑱ノーベル賞田中さん、島津製作所田中さん (3)
- ⑲サンガ、鳥羽高校、伏見工業高校、岡島 (8)

この結果をもとに京都府の特色をいくつかの項目にまとめ、追究しまとめる方法を試みた。

## (2) 「伝統」をキーワードに

多くの生徒が「京都の特徴」を古都というイメージでとらえていることがわかる。この場合の「京都」は京都市を指していると考えられるが、他の都道府県と比べて「京都府」がどんな特色をもっているか、と外側からの視点でとらえる場合は、府内の一つの地域の特徴を全体の特徴としてとらえる方法もあることを理解させるようにした。

導入の学習活動としてアンケート結果①、③、

行事と日時	
壬生狂言 (壬生寺)	4月21～29日
曲水の宴 (城南宮)	4月29日
流鏝馬・競馬 (下鴨神社・上賀茂神社)	5月3～5日
鞍馬の竹伐り会 (鞍馬寺)	6月20日
祇園祭 (八坂神社)	7月1日～29日
山鉾巡行	7月17日午前9時出発
神幸祭	7月17日午後4時出発
六道路 (祇園寺)	8月7～10日
大文字五山送り火 (大文字五山)	8月16日
千灯供養 (北野念仏寺)	8月23～24日
地藏盆 (各町内)	10月22日
時代祭 (平安神宮)	10月22日
鞍馬の火祭 (鞍馬山鞍馬社)	10月22日
大根炊き (鴨通了徳寺・千水観音堂)	12月7～10日
通し矢 (三十三間堂)	1月15日
節分 (壬生寺・吉田神社)	2月2日前後

▲⑥ 京都市のおもな年中行事

⑥を取り上げ、帝国書院『中学校社会科地図(最新版)』p.79を開いて、文化遺産の多さを実感させた。また、『府学習』p.4の⑥(京都市のおもな年中行事)を用いて、数多くの伝統行事があることを確認したり、p.5の⑦を活用した上で次の課題を追究させた。

## ◆追究課題

- ①なぜ、京都にはそのような文化財や伝統行事、伝統産業が多いのだろう。
- ②祇園祭や西陣織などはいつごろからはじまったのだろう。
- ③現在、伝統を引き継いでいく上でどのような課題があるのだろう。

課題の追究過程においては『府学習』に示された「●調べ先」の補注が有効に利用できる。また、自分の住んでいる都道府県に関わる資料は、校内の図書室や学校の近くの図書館にも蔵書が豊富で調べやすい。また京都の観光用ガイドブック、インターネットも積極的に活用した。

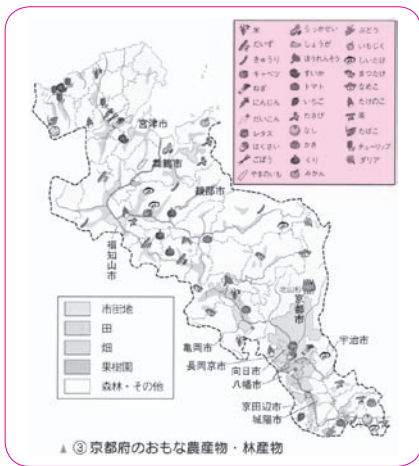
①は京都が「都」であったからという仮説を容易に立てられる。そして、②の祇園祭の起源は平安時代にあつて、中世になって巡行がはじまったということ。西陣織も古代の織部司おりべのつかさに起源があり、中世末期に西陣織と呼ばれるようになったこと、など比較的簡単に調べられる。生徒が追究過程で関心をもち活用した文献の中では『京都のなぜなに学習クイズ96問96答』(京都教育大学社会系教育

研究会編著、明治図書社会科教育2001年11月別冊)がわかりやすかった。③については、景観の保存についてp.4の①京都駅付近の航空写真や、ハンバーガーショップの看板の写真をもとに、歴史遺産の保存と開発の考え方を対峙させ意見を出し合わせた。さらに、西陣織など伝統産業の現状については、『府学習』p.8やp.16の工業生産品の統計から繊維工業の割合の減少やネクタイ生産が全国1位になっていることに気づかせるようにした。

また、ノーベル賞を受賞した田中耕一さんが京都府特別栄誉賞を受賞した新聞記事(朝日新聞2002.11.15)を活用し、賞を授与する知事が和服を着ていること、受賞者の田中さんは京都のベンチャー企業の社員であることなどに気づかせ、新しい京都の工業の特徴にも興味をもたせることができた。

### (3) 府内の特産物に着目して

「伝統」をキーワードにした学習では「京都府」は「古都」として、他の県からみた一つの視点でその特色をとらえた。次にもう一つの地域をとらえる方法として、府内の地域的なちがいに着目して「京都府」の特色をとらえる学習を行うことも必要である。そこで「京都府」に対する生徒のイメージの中から「たけのこ」に着目した。これは学校のある長岡京市を中心とした乙訓地方の特産品である。しかしその「たけのこ」が京都府



全域で生産されているものではないことは容易に考えることができる。そこで次のような学習課題を設定し取り組ませた。

#### ◆ 追究課題

- ① 乙訓のたけのこはいつごろから有名にな

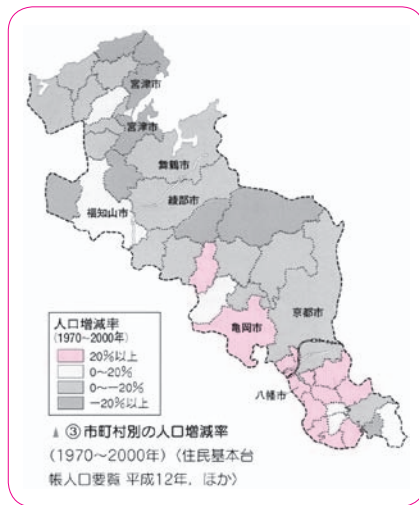
ったのか。

- ② 乙訓以外の地域にはどんな特産物があるだろうか。

- ③ 京野菜と呼ばれるものを調べてみよう。

乙訓で生産されるたけのこは、「京たけのこ」として「京の伝統野菜」(p.10②写真参照)の指定17品目にも含まれていること。京都市の郊外でさまざまな野菜が生産されていることなどを調べさせ、産地の地域的な分布をまとめさせた。また、なぜそのような野菜が栽培されているのかということを追究していくと、「京料理」、「精進料理」などとの関連もわかり「古都」という特色につながっていくこともわかる。

### (4) 地域の変化に着目して



京都府の人口の変化を示す資料をもとに、自分たちが住んでいる地域の動態的特色を理解させる学習もたいせつである。身近な地域を学習した際に集めた資料なども参考に次のような追

究課題を設定した。

#### ◆ 追究課題

- ① 「京都府」全体の中で、自分の住む地域はどのような特徴を示しているのか。
- ② また、それはどのような社会の変化や地域の変化と深い関係があるのか。

幹線交通路が集中している地域と南部や北部の地域差、高速道路や関西文化学術研究都市の建設など地域に大きな変容をもたらした条件に気づかせるようにすることがたいせつである。

### (5) まとめ

学習のまとめにおいては、京都府の特色をとらえた視点や方法について振り返らせ、どのように調べたか、その方法がどのような点で有効であったかなどを再確認させる必要がある。